

伊勢観光「移動」も満足に

新型コロナウイルス感染症第5波が収まり、県内各地がにぎわい始めた。中でも伊勢神宮の10月の参拝者数は約35万人で、夏休み中の8月と比べて約9万人、緊急事態宣言中の9月からは、約20万人増加した。

多くの観光客が訪れる伊勢市だが、課題は「移動・交通」だ。令和2(2020)年の伊勢市観光客実態調査によると、伊勢を訪れた観光客の満足度は、「景観・雰囲気」は93点と最も高いが、「移動・交通」に対しては、84点と調査項目の中で最も低くなった。平成26(2014)年調査以降、この傾向は続いており、観光客の満足度向上のため、地域では、「移動・交通」環境の改善を目指す動きがみられる。

三重交通が、今年4月に導入した「神都ライナー」は、県内初の接続バスである。定員は標準的なバスの約1.6倍の113人と、一度に多くの人を乗せることができる。また、伊勢市駅―外宮―内宮の主要スポットのみに停車する「特急」として運行することで、移動時間を短縮した。今後、人出が回復した時の、頼れる移動手段ができた。

また、数年前から伊勢でも「人力車」を見かけるようになった。一度に運ぶことができる人数は僅かだが、「景観・雰囲気」を楽しみながら移動できる手段として期待できる。地域に精通した俵夫(しゃふ)(引き手)さんが、伊勢ならではの話を交えながら案内してくれるため、WEBや本では得られない魅力を知ることができる。また、普段は地元の人しか立ち入ることのない、五十鈴川の「とび石」をはじめとする秘境スポットや、駐車場までの送迎なども行っており、旅の移動時間も堪能できる手段として人気を集めている。

持続的に成長を続ける観光地として、今後も、多くの人から選ばれ続ける姿に期待したい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 岡澤 初樹)